

目次

主催者挨拶	1	分科会 12: 今さら聞けない国際基準 ～スフィアって何?～	31-32
共催挨拶・来賓挨拶	2	分科会 13: 多様な組織を巻き込む情報共有会議のあり方	33-34
内閣府・JVOADタイアップ宣言	3	分科会 14: 災害復興において担い手はいかに生まれてきたか	35-36
メッセージ	4	分科会 15: 災害廃棄物の対応における技術系NPOとの連携	37-38
オープニングセッション	5-7	分科会 16: 頼れる宗教系団体との被災地支援における長期的な協働について	39-40
プレセミナー・交流会・Bloom Works ミニコンサート開催	8	分科会 17: “いざ”という時どうなる? あなたの食と栄養	41-42
分科会 1: 三者連携は、どこまで進んだか	9-10	分科会 18: 災害ケースマネジメントの展開と課題	43-44
分科会 2: 災害ボランティアセンターの多様な支援活動と課題について	11-12	分科会 19: 災害対応で使える地図データ、地図システム	45-46
分科会 3: 災害時の外国人支援	13-14	分科会 20: 支援物資を届けるための組織間連携②	47-48
分科会 4: 生活再建支援を見据えた福祉専門職によるアセスメント	15-16	全体セッション	49-52
分科会 5: 命と尊厳が守られる避難生活を考える①	17-18	クロージングセッション	53-56
分科会 6: 支援物資を届けるための組織間連携①	19-20	総括・閉会挨拶	57
分科会 7: 災害時の法制度と相談のあり方について被災者の生活再建に必要な課題とは?	21-22	協賛企業・協賛団体のご紹介／展示ブース	58-59
分科会 8: 命と尊厳が守られる避難生活を考える②	23-24	JVOAD紹介・収支報告	60
分科会 9: 家屋の復旧・再生・解体による地域復興への影響	25-26	開催概要	61
分科会 10: 災害時の福祉支援の現状と連携・支援方策	27-28	参加者の声	62
分科会 11: 被災地の社会課題に対する企業の対応を考える	29-30		

主催者挨拶



NPO法人
全国災害ボランティア支援団体ネットワーク
(JVOAD)

代表理事

栗田 暢之 くりた のぶゆき

阪神・淡路大震災を機に設立した認定NPO法人レスキューストックヤード代表理事を務め、50箇所を超える現場で支援活動を展開。平常時は地域防災力や災害ボランティア・NPO等の育成等に携わる。東日本大震災の教訓を踏まえ、市民セクター間や行政・社協・民間支援団体等による連携強化を目的としたJVOADの設立に尽力し代表理事を務める。中央防災会議専門調査会委員ほか、省庁等の各種検討会委員、岐阜大学、至学館大学の非常勤講師も務める。

今回は全国フォーラムの開催直後に大阪北部地震が発生し、その後、西日本豪雨、台風21号、そして北海道胆振東部地震と大きな災害が立て続けに発生しました。JVOADも持てる力を最大限発揮して、現在進行形で対応に当たっておりますが、支援の漏れやむらをなくすという私どもの理念に照らし合わせますと、まだまだ不十分な状況です。

南海トラフ地震、首都直下型地震など、いつ来てもおかしくない大災害と隣り合わせの中、世界経済フォーラムによるグローバル報告書では、発生や影響があるというふうに考えられる高いリスクとして、最近では自然災害、異常気象が上位に挙げられ、まさしく地球規模で災害とどう向き合おうかが問われています。

今回4回目のフォーラムを開催するにあたり、全国域でのネットワークづくりの取り組みとして、内閣府とJVOADによるタイアップ宣言に調印いたしました。しかし、協定を結ぶことが目的ではなく、私たちはこれをどうやって実践に移していくか、強い覚悟で臨んでいく

ことが重要です。JVOADとしては、いずれの取り組みを進める上でも、より多くのセクター、より多くの皆さまと協力し合って、災害を乗り越えていくことが重要と認識しております。

こうした意味で、昨年まで出会えなかった皆さまとの出会いの場が必要だと感じ、今年には多種多様な20の分科会を準備しました。私たちが目指すべきさまざまな連携について語り合うとともに、今ある枠組みにとらわれることなく、災害の多発化と広域化、被災者ニーズの多様化という時代に即したテーマで、新しい災害支援の文化を、皆さまと一緒に創造していきたいと思っております。

最後になりますが、協催いただきました内閣府をはじめ、ご協賛、ご後援いただきました多くの皆さまにこの場をお借りしまして、心より厚く御礼申し上げます。